2022 年前期・進捗報告（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２２年　１０月１日
● 事　業　名　：　自然と生きる若者の集団プロジェクト
● 資金分配団体　：　一般財団法人中部圏地域創造ファンド
● 実 行 団 体　：　特定非営利活動法人馬瀬川プロデュース

① 実績値＝原則、2022 年 4 月～9 月末の実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況 （実施した活動内容も５Ｗ１Ｈや、参加人数等もわかるように書いてください＝別紙一覧でも可）	進捗状況 ＊
1-1 地元が主催するイベントの支援及び住人を対象に行った「住み方アンケート」のニーズ、要望を種とした活動を行って、住みやすい地域づくり活動を行う。	①　入込者の数アンケート調査結果	①2,200 人 ②自然のすばらしさに対する理解が進んだことが確認できる	2023 年 3 月	当該地域への入込者数は、コロナ感染以前には鮎釣りのほか夏休み期間中を中心に年間 3,000 人程度で推移していた。 ・事業期間初年度（令和 2 年度）2,600 人 コロナによる移動規制が始まった令和 2 年度から本事業開始となった。 ・事業 2 年目（令和 3 年度）2,400 人 ・事業最終年（令和 4 年 8 月現在）3,200 人 本年度末には 3,500 人となることが予想される。 **「考察」** コロナで人の動きに制限があった中で、山村部への入込者数は激減したとは言えない状況が見られた。 都市部から過密を避けて山村を訪れた入込者は、山村でしか得られない自然の素晴らしさや人との交流等で満足感を得た。 特筆すべきは、地域が主催する各種イベント等に、本事業から出向いた学生ボランティアがスタッフとして支援活動を行い、高齢化による人手不足などマンネリ化した従来のイベントに、若い学生スタッフが加わって会を盛り上げ、功を奏した。 この活動を通じて、地元住民はもとより下呂市及び岐阜県担当者から高い評価を得た。（**まとめ**：目標値を達成した。）	1 計画通り進んでいる
1-2 自然豊かな地域であることを実感するためにも、地元住民に自然環境整備活動に参加を促す。	①　地元住民参加者数 ②アンケート調査結果	自然豊かな地域であることを実感するようになった住民の数 100 名　当初に比べ 20%増	2023 年 3 月	地元住民の地域活動への参加の動向は、観光団体の担当者及び地元住民を加えて 600 人工、地元アルバイト 100 人工、本事業からの支援参加人数（会員・学生）約 100 人工となった。 地元住民のスタッフとして活動への参加は見られなかった。 イベントへの参加者数は、地元住民及び入込者全体で近年には見られない多くの参加者数となった。（**まとめ**：住民参加は変化なし。入込者約 3,500 人。17%以上の増となる見込み）	3 計画より遅れている。
1-3 地元のこどもたちや活動するメンバーが、地域に愛着を感じるようになるため、寺子屋での学習支援、自然環境の勉強会を実施する。	①全体の参加者及び地元のこどもの参加数 ②地元支援者の人数 ③アンケート調査結果	①寺子屋：地元 30 人、他地域 20 人 ②20 人 ③愛着を持つようになった人　20 人	**2023 年 3 月**	コロナの影響で、地域の子どもたちを対象にした活動は皆無となった。　コロナ以前は、地域に存する唯一の馬瀬小学校に 1 日（午前中）自然環境教育の時間を受けていたが、コロナの影響で中止となった。 しかし、従来継続してきた河川の汚染防止等について、これまで会が推進してきた合併浄化槽の活用 100%運動について全児童を対象に資料を配布した。（**まとめ**：不実行）	4 その他（コロナで子供対象の実施は困難）
2-1 地域環境の維持、及び、地域住民との交流促進に向けて、要望の強い草刈り、河川・用水路等の地域支援ボランティア活動を実施する。	①ボランティアの数・回数 ②地域との交流回数及び地域住民の活動への参加人数	①草刈り支援参加者 20 人、1 回、河川・水路清 20 名、2 回 ②2 回、50 人	2023 年 3 月	①　草刈り支援 地域の支援要望の NO1 は草刈りで、7 月 27 日～8 月 29 日の間に学生及び会員によって地域内で約 21 アールの草刈りを実施。17 回、52 人工（104 日） ②　8 月 1 日～8 日の間に、岐阜県から借用したラジコン草刈り機（昨年に続いて 2 年目）により地域内で 86 アールの草刈りを実施。 7 回、10 人工 ③　また、8 月 6 日には、地域内（川上地区）において岐阜県から借用したラジコン草刈り機による実演会を開催し、会員、学生、地元住民の他、県・市から関係者の参加があり 20 数名が参加し、機械の操作等について実演・交流を行った。 1 回　　24 名 ④　用水路の補修活動に参加し、地元住民との交流がなされた。1 回、会員、学生、地元住民　21 人工 ⑤　農業体験では、トマトの新規就農農家の要望により収穫作業の支援を 1 ヶ月にわたって実施し、大きく貢献した。 20 回、40 人工（80 日） ⑥　地元観光協会が実施するイベントにスタッフとして支援を実施　12 回　12 人工 ⑦　地元公共施設に、イベント用木製家具を製作して設置した。1 回　46 人工（**以上まとめ：**目標値は達成した。）	2 計画通り進んでいる。

2-2 空き家の実態把握・整備等、地域に住める環境づくりを推進する。	①空き家の実態把握･整備件数･活用件数 ②移住した人の数 ③空き家を改修して活用	①把握空家５戸、整備件数１件　活用件数１件 ②目標数値５人→２人 ③整備件数１件 活用件数１件	2023 年 3 月	空き家調査 当事業で実施した住民宛アンケート調査を受け、独自の空き家調査を実施し、その実態を把握した。過去の行政による調査資料との調整の行い、調査台帳（野帳）を整備し、空き家の位置を明確にした。人口減少に伴って増加する空き家の実態、その活用に供したい。(なお、調査票及び位置図は、個人情報として取扱いを厳格にすることとしている。) 空き家の実態調査結果。 ① 空き家戸数　49 戸 廃屋戸数　　14 戸（空き家にカウントしない。） 活用家屋数　10 戸（空き家には含めない家屋。） 活用は、企業誘致による従業員宿舎用整備中２戸、別荘利用２戸、ほか移住６ ② 本事業で働きかけた物件を含め改修・活用し移住６戸 ③ 本事業期間中に独自で空き家の改修と活用は困難。 本事業実施に伴う学生の拠点として必要な空き家活用は、コロナで学生の時間が取れないなど不実行で、継続検討する。(**以上まとめ：**目標値達成)	2 計画通り進んでいる。
3-1 入込者の自然体験を経た自然･環境に関する関心の高まりについて把握するために、調査を行う。	①聞き取りおよびアンケート調査 ②調査で自然・環境への関心が高まったと回答した人の数	①50 人 ②10 人	2023 年 3 月	① 聞き取り調査（イベント参加者等入込者から） ・地域（自然）が気に入って複数回訪れている。37 件 ・別荘として取得を考えていたが、コロナで収入が減少し余裕がなくなって断念。1 件 ・現経済下で、生活不安が増加して移住を断念。1 件 ・老後の別荘として取得を検討している。2 件 ・子育てのために、関西から移住。1 件 ・その他　14 件（案内した例もあるが、裁ち切れ。） ② 自然や環境の良さから、何度も訪れている。2 件 ③ 鮎釣り、渓流釣りが趣味で毎年訪れている。4 件 **まとめ：** ① 調査は聞き取り等 50 人以上で達成した。 ② ②については指標数値を大幅に達成した。	2 計画通り進んでいる。

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.（任意）活動に関する報告
地域支援活動や地域の活性化活動は、今回の事業期間が短く、予算規模が小さいため、結果を出そうとすることには無理があると考える。 願わくは、私どもの組織は弱小で事務局員もないので、せめて常勤の事務局が１名置ける程度の支援があれば本活動が継続できると思っている。 次年度以降に、一層の努力が必要である。

③ 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況
☐自団体のウェブサイトで表示している　☑広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☐イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2. 広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 協議体に関する新聞報道はなされている。 2.広報制作物等 地元住民宛の印刷物を発行し、地元住民に理解と協力が得られるよう配慮した。 3.報告書等 会の総会資料を、町内会、関係する団体等に送付し、理解を深める努力をした。 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） 開催していない。

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3〜4 枚程度）